

公民館だより なかがわ

第477号

令和4年8月1日

発行 中川地区公民館

TEL. Fax : 679-2501

中川地区会長会合同研修会 行ってきました！

7月14日(木)～15日(金)、中川地区会長会合同研修会が行われ、総勢10名の参加で、南三陸の復興状況視察に行ってきました。14日は道の駅高田松原にて、併設されている「東日本大震災津波伝承館」(いわてTUNAMIメモリアル)を見学し、改めて津波の恐ろしさを実感した後「奇跡の一本松」の前で記念撮影をしました。15日はホテルで鋭気を養った後「語り部バス」(南三陸ホテル観洋では、震災を風化させない為に、スタッフが町をバスで案内しています)で実際に被災した職員の説明を聞きながら、戸倉地区、高野会館、南三陸町元防災センターを見学し、震災を風化させないため、後進に語り伝えていかなければならないことを改めて肝に命じたところです。



粋いき倶楽部

7月12日(火)に第3回粋いき倶楽部「健康教室ボウリング大会」が会員15名の参加で行われました。山田館長の始球式から始まり、6チームに分かれてスタート!!何十年ぶりにボウリングをした会員さんがほとんどで、最初はドキドキしながらのようでしたが、投球するごとに昔の感覚を思い出し、スベアやストライクをバシバシ出していました。昔は上山にもボウリング場があったのよ～、とお話をして下さり、昔を思い出して楽しんで頂けたようでした。「楽しかった～♪」「もう1ゲームやりた～い!」との声も聞かれ、とても充実した時間となりました。



単発講座「マクラメ編み キーホルダー作り」

7月1日(金)、生涯学習開発財団マクラメジュエリー技能認定士の鈴木有美先生にお越しいただき、「マクラメ編みキーホルダー作り」が8名の参加で開催されました。編み方は覚えてしまえばサクサクと進みます!が、途中でどこを編んでいるのかわからなくなるので、皆さん集中してもくもくと編んでいました。同じ作品なのにそれぞれ個性的で素敵なキーホルダーが出来上がりました。とても楽しい時間となりました♪



第3回ウォーキング教室 「クアの道高野」

6月26日(日)第3回ウォーキング教室は「毎日ウォーキング」における中川地区「クアの道高野」で、中川地区のウォーキング会員10名、会員以外の方9名の参加で開催されました。6月20日(月)の早朝に中川地区会長会有志の皆さんより、クアの道を整備していただいたので、大変歩きやすいコースとなりました。天候にも恵まれ(暑すぎるくらい☀)恒例のヤッホ!!もきれいに聞こえ、充実した時間となりました。クアパークのアジサイもきれいに咲いていました。ぜひ、中川地区「クアの道高野」を皆さん歩いてみてください!



第4回ウォーキング教室 「長谷堂城址」

7月22日(金)第4回ウォーキング教室は「長谷堂城址」で、会員12名の参加で行われました。

東北の関ヶ原戦と呼ばれ、別名『亀ヶ城』と呼ばれている長谷堂城址。【山形百名山にも選ばれた。】地元の案内人の方の話しを聞きながらいざ山頂へ!当時の歴史の人物、直江兼続や最上義光の話に会員の皆さんも聞き入ってしまうほどでした。あいにくの天候でしたが、山形市内や蔵王連峰を見渡す事が出来るスポットでもあるとのことでしたので、天気が良い時期・花の季節の時期に是非おすすめしたい所でした。



女性学級きらい

7月19日(火)第4回女性学級きらいでは、「健康教室ボウリング大会」が会員10名の参加で、4チームに分かれて行われました。久しぶりにされた方ばかりでしたが、やはり昔を思い出しながら2ゲームを楽しんでいただけたようで、あっという間の時間となりました。感覚を思い出したところで終了となり、また開催して欲しいとの声も頂き、楽しい時間となりました!



体験講座「コケテラリウム作り」

7月8日(金)午後7時「モス山形」さんより講師の方に来ていただき、体験講座「コケテラリウム作り」が小学生7名、大人8名、計15名の参加で開催されました。「コケテラリウム」はガラスの器の中に、小さな森や自然を作っていきます。大人の方も子供たちも講師の方にアドバイスをしてもらいながら、夢中で自分だけの世界を作り上げていました。あっという間の1時間で、それぞれ素敵な作品が出来上がりました。



8



行事予定



- 8/1(月) 市報・館報・福祉村だより
福祉村運動会代表者会議
- 8/3(水) 三者会、中川地区会長会
公民館運営協議会
活動交付金交付式
白石上山線薄沢永野間促進協議会
- 8/5(金) 第5回パソコンクラブ
防犯協会中川支部幹事会
- 8/9(火) 第4回料理いき俱樂部・
高齢者軽スポーツ大会(職員不在時間帯あり)
- 8/16(火) 中川福祉村運動会合同会議(主事部、体育部)
- 8/17(水) 生居永野開拓線同盟会総会
- 8/21(日) 中川地区ソフトボール大会
- 8/22(月) 第5回そば打ち教室
- 8/23(火) 第5回女性学級さわり
第2回子ども会育成会
- 8/25(木)~26(金) 中川シニアクラブ泊研修会
- 8/30(火) 第5回ウォーキング(職員不在時間帯あり)

- 詩吟教室(火曜日) 8/2、9、16
ピンポン愛好会(木曜日) 8/4、18
スポーツ麻雀愛好会 8/6、27(土曜日)
8/18(木曜日)
グラウンドゴルフ愛好会(月曜日)
8/1、8、22、29

募集中!

詳しくは地区回覧チラシをご覧ください!

中川地区ソフトボール大会

- 日時 令和4年8月21日(日)
午前7時50分~
- 場所 中川地区公民館 広場
- 参加資格 中学生から一般までの中川地区民
(※消防団員は地区民に限らない)
- 参加費 無料
- 8月13日(土)まで、各地区体育委員へお申込み下さい。

ご好評につき第2弾!

単発講座「マクラメ編み」

- 日時 1回目: 令和4年 9月 2日(金)
2回目: 令和4年 9月30日(金)
3回目: 令和4年10月28日(金)
10時00分~12時00分頃
- 場所 中川地区公民館 図書室または集会室
- 参加資格 中川地区民
- 定員 先着5名程度
- 参加費 【作品毎】 材料費1,000円より+諸経費
(講師代負担等)



※1回目のみの参加もOK! 初めて参加の方は、
初回は「キーホルダー作り」になります。
8月19日(金)まで、公民館へ電話か来館にてお申込み下さい。
(定員になり次第、受付終了。)

9



行事予定



- 9/1(木) 市報・館報
- 9/2(金) 三者会、森林開発公団総会
中川地区会長会
公民館運営協議会
単発講座「マクラメ編み」
- 9/5(月) 福祉村運動会全体会議
- 9/6(火) 第6回そば打ち教室
- 9/9(金) 第6回パソコンクラブ
中川支部防犯診断
- 9/13(火) 第6回女性学級さわり
- 9/14(水) 文化産業まつり代表者会議
- 9/16(金) 福祉村運動会競技役員会
- 9/22(木) 第5回料理いき俱樂部
- 9/25(日) 中川地区少年少女球技大会
- 9/27(火) 第6回ウォーキング(職員不在時間帯あり)
- 9/30(金) 市報・館報
単発講座「マクラメ編み」

- 詩吟教室(火曜日) 9/6、13、20
ピンポン愛好会(木曜日) 9/1、8、15、22、29
スポーツ麻雀愛好会 9/3、24(土曜日)
9/15(木曜日)
グラウンドゴルフ愛好会(月曜日)
9/5、12、20(火)、26

お知らせ

9/11(日) 中川地区敬老会は中止となりました。昨年同様、対象の方にお祝い品をお届けいたします。

『民生児童委員』
もっとも身近な相談相手です!

民生児童委員に相談してもいいかなと思った事はありますか?こんな事相談しても大丈夫かなと躊躇してしまう事はありますか?

民生児童委員は地区における身近な相談相手です。高齢者・障害のある方・子育て、介護生活の困り事などに対して必要な支援を行っています。そして、適切な関係機関との繋がりとなる役割を担っております。身分としては厚生労働大臣から民生委員法に基づいて仕事を任せられている非常勤の地方公務員という扱いです。任期は一期3年です。

また、相談内容の秘密を守ることが法律上義務づけられています。

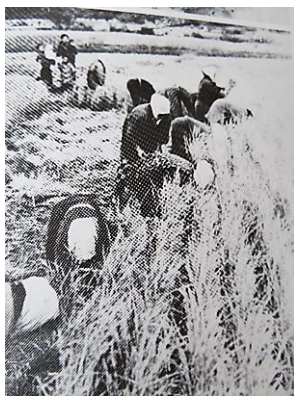
**安心して、気軽に地区の
民生児童委員に御相談下さい。**

おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百六十六弾〉

「昭和考、問わず語り（その18）」

〈農業中心の国家だった〉

昭和初期の日本は、内地では稲作、養蚕業を中心とした農業国家であった。終戦後の昭和二十五、六年頃、私が暮らした福岡の父親の実家は、家の大広間で蚕を飼っており、桑の葉を喰うカイコの音がしていた。また三十年代、蔵王鉾山から中川中学校にバスで通学したが、学校の前は一面桑畑であった。この養蚕は、一九七三年（昭和四十八年）のオイルショック以降、価格の暴落、化学繊維の普及等により衰退の一途を辿ったためこの地では姿を消した。こうした産業の事情を古川隆久著「昭和史」（ちくま新書）では次のように伝えている。（写真は、大月書房発行「女たちの昭和史」より）



〈労働環境〉

昭和の初期は、人口の約半分を農民が占め、またその農民もほとんどが小作農のため、激しい労働の割には生活が苦しかった。（中略）しかし都市に出て行ったからといって豊かな生活が約束されているわけではなかった。余裕ある生活ができたのは、高学歴層のごく一部、大企業や中央官庁の幹部となった人たちだった。東京や大阪などの大都市には、狭苦しい長屋住まいで不安定な日雇い仕事に従事している人がかなりいた。それでも、（中略）映画や遊園地など安価な娯楽に触れる機会も増えるので、都市部への人口移動がやむことはなかった。

〈経済構造、貿易〉

昭和初期の日本は、製造業が未発達で、わずかにアジア、アメリカを相手にした貿易が行われていた。なお、産業やインフラを動かす石油をアメリカから輸入しており、これが後に日米開戦の遠因となる。

貿易額は、大正九年（一九二〇年）時点で世界貿易に占める日本の割合は三％程度、同年代の輸入や輸出はいずれもアジア向けがほぼ半数だった。インド、東南アジアなどから安い原料（綿花、ゴムなど）を輸入して作った綿布や雑貨類を中国を中心とするアジア一帯に輸出し、アメリカには、日本特産の絹糸を使った絹製品（主に女性用ストッキング）を輸出した。またその見返りに石油や屑鉄を輸入し、工場やビル、鉄道の建設、蒸気機関車や大型商船、兵器の製造を行っていた。

アジアへの依存度は原料・市場ともに高く、アメリカに対しても（中略）、産業の高度化に必要な資源を輸入するという依存度の高い関係で、（中略）自立度の低い経済構造になっていた。（古川隆久著「昭和史」ちくま新書）

甲石地区 高橋 正之

〈交通事情〉

当時の陸上の交通機関は、鉄道が主であった。山形県は、明治三十七年十月に奥羽本線・板谷峠から秋田県内までが開通、上山停車場は同三十四年二月に開業し、以後多くの温泉客が来町したとされる。

（一九二四年〈大正十三年〉四月）海沿いの幹線鉄道はすでにできているが、山間部や四国南部は建設中であり、山手線はまだ全通していなかった。（翌年全通）

当時の鉄道は、（中略）鉄道省（国鉄）が運営していた。電車や電気機関車は大都市の周辺のみ、気動車はローカル線の一部で走り始めた程度で、大部分は蒸気機関車が客車や貨物を引っ張る形だった。市内交通では、まだ地下鉄がなく、路面電車が主役で、バスやタクシーがようやく目立ってきたところであった。

東京⇄大阪間は、特急でさえ十一時間あまりを要し、普通列車なら約十八時間を要した。当然、日帰りなど不可能だった。特急は、一日二本しかなく、東京⇄大阪間の三等運賃が六円余り、特急料金が二円で合計八円。現在の貨幣価値に換算して三千倍すると二万四千元、現在の新幹線「のぞみ」の普通指定席の倍近く、一等だと運賃料金とも三倍になるので二十四円、三千倍すると七万二千元となり、かなりの高額であった。（古川隆久著「昭和史」ちくま新書）

（次回は、通信事情、平均寿命などについて記述する予定です。）

内地の産業人口の比率は、昭和五年（一九三〇年）段階で、農業を中心とする農林水産業など第一次産業が半分強、工業など第二次産業が二〇％弱、官吏や商業・サービス業など第三次産業が三〇％弱であった。明治初期は、第一次産業が八五％を占めていた。一九三〇年代のアメリカの第一次産業人口比率が二二％、イギリスで六％であった。平成二年（一九九〇年）段階での日本の第一次産業は七％、第二次産業は三四％、第三次産業は六〇％弱であるので、昭和初期の日本は、近代的な産業がかなり普及して来て農業人口は減り続けていたものの、なお農村中心の社会であった。